



環境報告書 2019



新しい SMK に向けて変化にチャレンジ

日本は新しい時代「令和」を迎えました。海外メディアの訳はさまざまですが、令を「秩序」、和を「調和」と解釈するのであれば、「秩序」と「調和」の価値観は、世界中が直面している地球環境問題に対する姿勢にも当てはまります。

パリ協定（温暖化対策を定めた国際協定）では、全ての国や地域が共通ルールのもと、温室効果ガスの削減に取り組むことになりました。京都議定書で解消できなかった先進国と途上国の利害対立を、各国や地域の国際的な調和をもって乗り越えつつあります。

今年6月に日本で開催された G20 サミットでは、G20 として初めて開催されたエネルギー・環境相会合において、環境と成長の好循環の実現や、海洋プラスチックごみ対策について議論されました。

今、世界中が地球環境問題に向き合い、各々の価値観と環境を調和させながら持続可能な社会の実現を追求しています。

山積する地球環境問題に挑むには、革新的技術とイノベーションが不可欠です。IoT や人工知能 AI の技術は社会全体に大きな変化を起こしており、

未だに多くのポテンシャルを秘めています。これを新しいビジネスに繋げるためには、今までのやり方にとらわれず新しいことにチャレンジすることが必要です。SMK の行動指針「高い目標を考え、失敗を恐れぬ勇気をもって行動する」の実践です。当然、新しいことへのチャレンジには困難が付きものですが、それを「壁」ではなく、SMK の新しい価値創出に向かう「階段」とポジティブに考え、チャレンジしてまいります。

また、廃棄物についての企業の社会的責任は重くなっています。廃棄物管理は、全ての環境保全活動の礎です。資源の有効利用（3R の推進）はもちろんのこと、コンプライアンスと社会秩序の維持に、これまで以上に責任を持ち取り組んでまいります。

SMK は経営戦略ビジョン「Challenge, Creativity, Solutions」を掲げています。

環境保全の分野においても、環境に配慮した製品の開発や環境ビジネス市場・事業の創出などの取り組みにより、地球環境と調和のとれた未来と社会に貢献する企業として成長するよう、これからも勇往邁進してまいります。

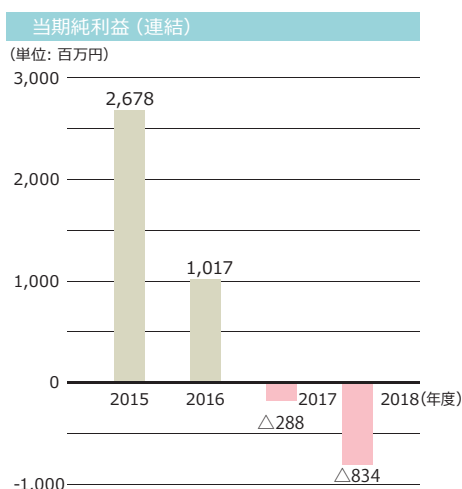
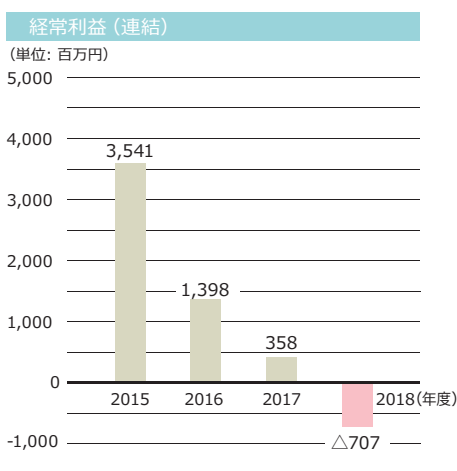
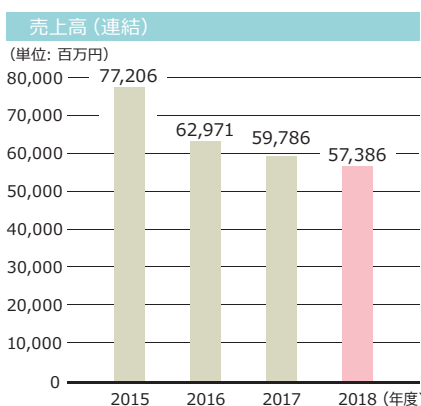
2019年7月

代表取締役社長 池田 靖光

トップメッセージ	1	省エネルギー・省資源への取り組み	5
会社概要	2	環境会計	6
環境マネジメント	3	環境保全活動トピックス	7
2018年度環境保全活動総括	4	環境に配慮した製品づくり	10
マテリアルバランス	4		

会社概要 (2019年3月31日現在)

商号 SMK株式会社
英文社名 SMK Corporation
創業 1925年(大正14年)4月3日
主な事業 電気、通信および電子機器その他産業機械、情報機器等に使用される各種電子機構部品の製造販売
資本金 7,996百万円
社員数 5,828名(グループ)
本社 〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号 TEL.(03) 3785-1111(代表) FAX.(03) 3785-1068
 ホームページアドレス <https://www.smk.co.jp/>
主な製品 高周波同軸コネクタ/ FPC 対基板コネクタ/基板対基板コネクタ/ジャック/リモコン/スイッチ/各種無線モジュール/カメラモジュール/抵抗膜方式タッチパネル/静電容量方式タッチパネル



本報告書について

対象期間 2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)
集計範囲 SMK株式会社(国内9拠点)および連結子会社(国内3拠点、海外18拠点)
CO₂排出量 電気のCO₂排出量は、国内事業所は電気事業低炭素社会協議会、海外事業所は2005年から2011年はIEA(International Energy Agency)、2012年からはDEFRA(Department for Environment Food & Rural Affairs)の換算係数に準拠します。その他燃料のCO₂排出量は環境省公表の換算係数に準拠します。また、CO₂換算係数を見直したため過去年度のデータを修正しています。
企業情報の入手方法 会社案内、IR情報、製品紹介、過去の環境報告書はSMKホームページで公開しています。
<https://www.smk.co.jp/>

環境マネジメント

SMK グループ環境憲章

1. 基本理念

SMKは良き企業市民として社員一人ひとりが
地球規模で持続的発展が可能な社会に
寄与するという自覚を持ち、
総合的な高度技術により
経済発展と環境保全の両立に努めます。

2. 行動指針

- (1) 環境にやさしい製品の開発をします。
- (2) 物を大切にし、廃棄物を減少させます。
- (3) 資源を大切にし、エネルギーを節約します。
- (4) 3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進します。
- (5) 無駄のない購入・生産をします。

環境保全推進体制

SMKの環境保全に関するグループの方針、目標、施策は環境担当役員を委員長とする「環境保全委員会」と、重要事項については執行役員会で審議、決定し、国内外の事業所に展開されます。各事業所ではグループの方針、目標、施策を受け、さらに固有の課題も取り入れて「事業所環境保全委員会」で事業所の方針、目標、施策を定めて活動を行っています。

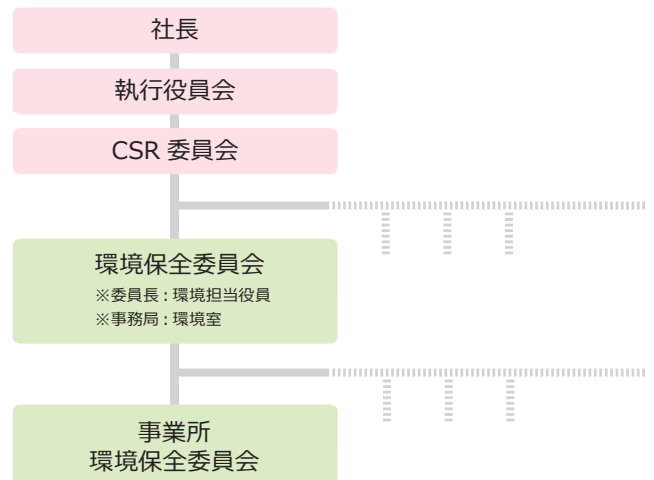
環境マネジメントシステム

SMKは国内・海外の全生産事業所で、ISO14001国際規格に基づく環境マネジメントシステムを構築しています。

2007年度からは、各拠点での活動に加え、全グループ共通の目標、テーマを設定して拠点間のつながりを強化し、グループ全体のシステムの高度化を図ってきました。

また、環境保全活動はグループ内にとどまらず、2004年に初版を発行したグリーン調達ガイドラインでは、協力会社様にも活動推進をお願いしています。具体的には、SMKが禁止する環境負荷物質の不使用をお約束いただくとともに、ISO14001に基づく体制の構築をお願いしています。ISO14001の認証を取得されていない協力会社様に対しては、環境保全活動の実施状況を訪問して確認し、改善指導を行っています。

環境保全組織



省エネパトロール (富山事業所)



環境負荷物質監査員教育 (フィリピン工場)



廃棄物処分場視察 (ひたち事業所)



緊急事態訓練 (本社)

2018年度環境保全活動総括

地球温暖化防止

一部の海外生産事業所にて、新規プロジェクト製品の立上げに伴う電気使用量が増えた影響を受け、生産高CO₂原単位、CO₂総排出量ともに増加し、計画は達成できませんでした。

生物多様性保全

近隣の小学生を対象とした環境学習講座で、環境保全と生物多様性との繋がり、その重要性を説明しました。

資源の有効活用

製造工程における“ムダ取り”活動を推進した結果、生産高廃棄物原単位、廃棄物総排出量ともに計画を達

成できました。埋立処分量は、海外にて廃棄物のリサイクル処理を委託していた取引先が事業から撤退したため、増加しました。今後、新規リサイクル業者の開拓が課題です。

環境関連物質管理の確実な対応

新規の部材構成情報データの登録を継続し、システムの充実化を図りました。

環境配慮設計の強化

製品アセスメントとエコ商品の統合に向け、管理システムの変更を行いました。

新システムでの運用を2019年度から開始します。

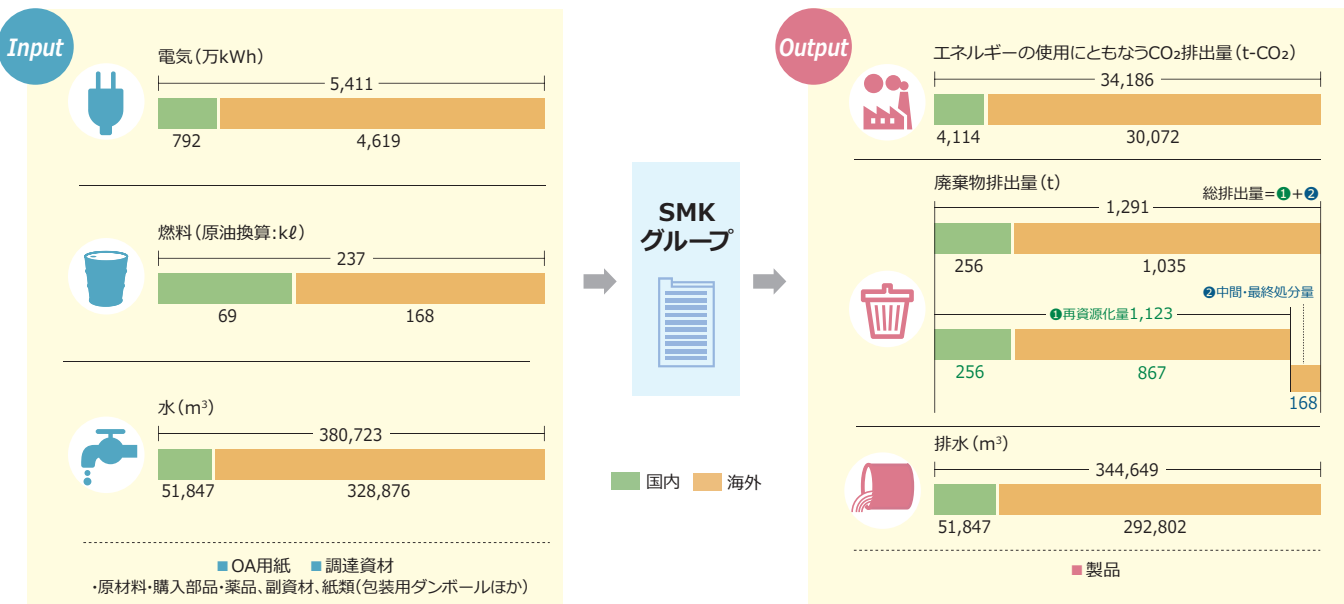
取り組み項目	2018年度		自己評価
	目標	実績	
地球温暖化防止	生産高CO ₂ 原単位*1を対前年度比100% 目標：0.60t-CO ₂ /百万円	7%増加 0.64t-CO ₂ /百万円	×
	CO ₂ 総排出量を対前年度比4%増加 目標：34,048t-CO ₂	5%増加 34,186-CO ₂	×
	LCA(カーボンフットプリント含む) SMK基準の検討	スコープ3試行カテゴリーの追加検討、公表済企業の状況調査	×
生物多様性保全	生物多様性保全の普及啓発	環境学習講座を実施	○
資源の有効活用	生産高廃棄物原単位*2を対前年度比4%増加 見込み：0.026t/百万円	4%削減 0.024t-CO ₂ /百万円	○
	廃棄物総排出量を対前年度比10%増加 見込み：1,488t	4%削減 1,291t	○
	埋立処分量を対前年度比3%削減 目標：95t	71%増加 168t	×
環境関連物質管理の確実な対応	部材構成情報登録・EU-REACH規則対応 システムの効率運用	新規部材構成情報の登録、管理システムの充実化を図った	△
環境配慮設計の強化	製品アセスメントのレベルアップ	製品アセスメントとエコ商品の統合に向け、管理システムの再構築を実施	○

*1：生産高CO₂原単位 = CO₂排出量/生産高 *2：生産高廃棄物原単位 = 廃棄物排出量/生産高

自己評価：○ 目標達成 △ 不十分 × 目標未達成

マテリアルバランス

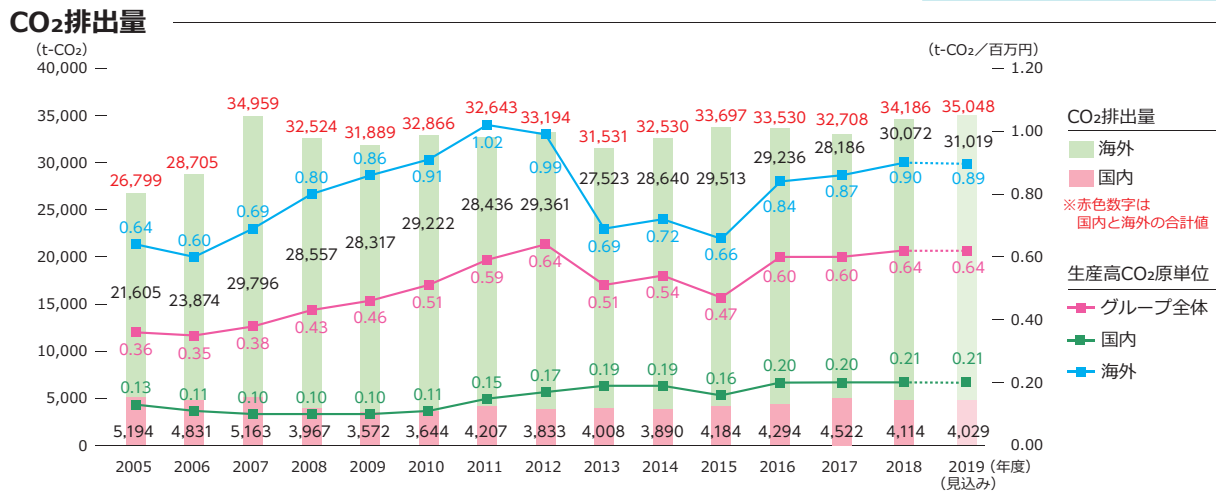
SMKでは製品の設計・開発、製造、販売などグループ全体の各プロセスにおける環境負荷量のマテリアルバランスを把握・解析し、低減化に努めています。



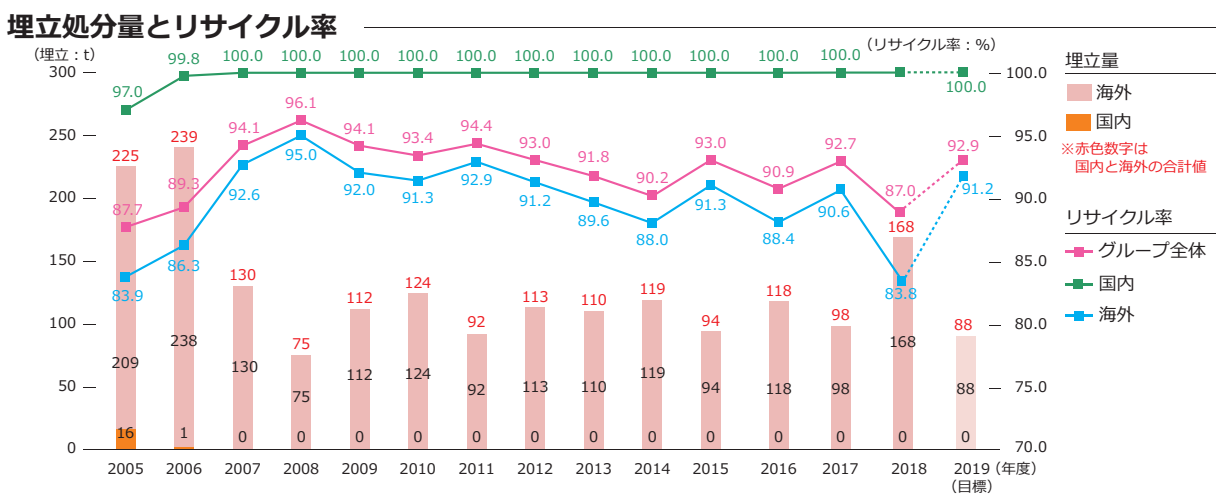
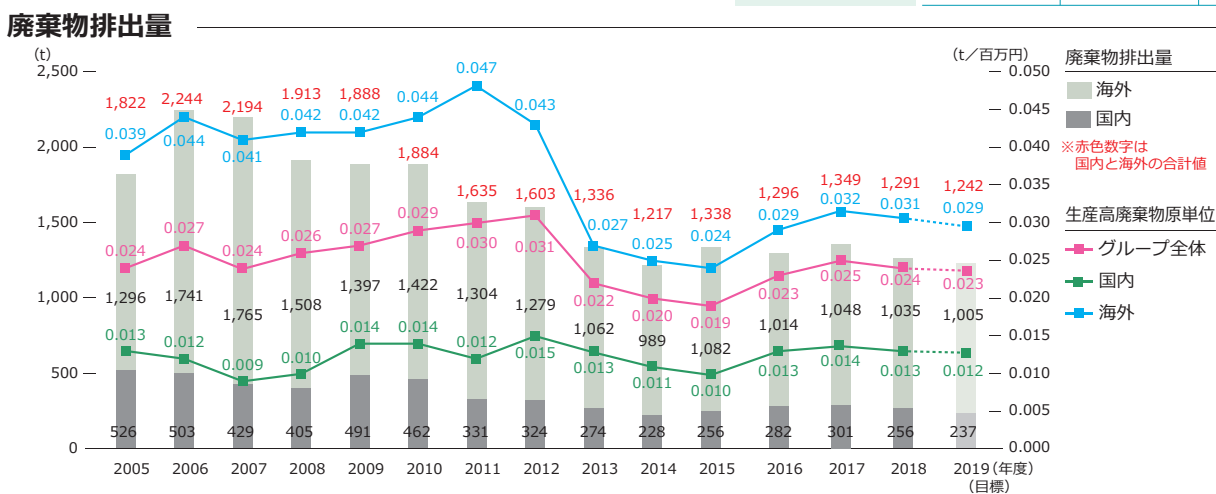
省エネルギー・省資源への取り組み

SMKでは、地球温暖化防止を重要な経営課題として、エネルギー効率の改善を図っています。また、廃棄物量の抑制やゼロエミッション化（廃棄物埋処分量ゼロ）に取り組み、資源の有効活用を目指します。

	前年度実績比		
	国内	海外	SMKグループ全体
生産高 CO ₂ 原単位	105%	103%	107%
CO ₂ 排出量	91%	107%	105%



	前年度実績比		
	国内	海外	SMKグループ全体
生産高廃棄物原単位	93%	97%	96%
廃棄物排出量	85%	99%	96%
埋処分量	—	171%	171%



環境会計

環境保全コストと効果

金額単位：百万円

コスト分類	主な取り組み内容	環境保全コスト				経済効果		環境保全効果(物量)		
		投資額		費用額		金額	前年度比	削減量	前年度比	
		金額	前年度比	金額	前年度比					
事業エリア内コスト	公害防止	70.9	1,837%	33.1	118%	0	—	環境負荷物質 使用量▲6.1t	122%	
	地球環境 保全	17.2	92%	46.2	97%	25.5	117%	生産高CO ₂ 原単位 ▲0.039t-CO ₂ /百万円	650%	
	資源 循環	0	—	27.8	103%	170.5	115%	埋立処分量▲70t 生産高廃棄物原単位 ▲0.006t/百万円	—	
	小計	—	—	88.1	391%	107.1	105%	195.9	116%	—
上・下流	グリーン購入の推進 等	0	—	0.4	57%	0	—	—	—	—
管理活動	蛍光X線分析装置の更新、製品への環境負荷物質非含有保証活動、環境マネジメントの推進 等	0	—	176.8	90%	0	—	—	—	—
研究開発	エコ製品開発の推進 等	0	—	18.3	115%	0	—	—	—	—
社会活動	地域および事業所内緑化活動 等	0	—	7.1	29%	0	—	—	—	—
環境損傷	—	0	—	0	—	0	—	—	—	—
合計	—	88.1	167%	309.7	91%	195.9	116%	—	—	

◎環境保全コストについて：

2018年度の環境保全コストは、前年度に対し投資は大幅増加、費用は減少となりました。投資が増えた理由は、一部の海外生産事業所において排煙装置を導入したことによるものです。

◎経済効果について：

2018年度の経済効果は、前年度に対し増加となりました。これは海外事業所における廃棄物の売却益が増えたことと、生産設備のリユースによる効果ならびに太陽光発電システムによる売電効果が引き続きでているためです。

◎環境保全効果(物量削減)について：

環境保全効果は、改善活動を推進した結果、生産高廃棄物原単位は改善できましたが、生産高CO₂原単位、廃棄物埋立処分量および環境負荷物質は悪化となりました。

太陽光発電実績

SMKおよび子会社が所有する太陽光発電システムによる2018年度の発電量は126万kWhでした。CO₂削減効果は400t-CO₂です。

▼茨城県



▼群馬県



▼フィリピン工場



環境活動トピックス

資源の有効活用



廃棄パレットで製作したスクールチェアの寄付

使用済の木製パレットで社内製作したスクールチェアを、地域の小学校へ寄付しています。2018年度は2つの小学校を訪れ、それぞれにスクールチェア50脚と、空き缶で製作したごみ箱・塵取りを3セット寄付しました。

スクールチェアの右側にはテーブルが付いていますが、左利きの生徒にとっては長時間姿勢を保ち文字を書くのは難しく、背骨の歪みが心配でした。そこで、今回は左側にテーブルを付けたモデルも8脚製作しました。



フィリピン工場



蛍光管の寄付

フィリピン工場ではLED照明への変更を進めており、まだ使える蛍光管が多く余っていました。そこで、2018年6月、小学校の保護者による学習環境を整えるプロジェクトを通じ、近郊の小学校へ中古の蛍光管50本を寄付しました。

これまで、小学校の教室や廊下には十分な照明が設置されておらず、薄暗かったとのこと。子供たちのより良い学校生活のために役立てていただけました。

環境コミュニケーション

SMK 環境活動の紹介とものづくり教室開催

2018年8月、品川区環境情報活動センター様との共催で、体験型環境学習講座「環境保全活動の紹介とものづくり教室」を開催しました。

子供たちに、「環境保全の大切さ」と「ものづくりの楽しさ」を伝えるプログラムで、毎年夏に開催しています。今回は、地域の小学生20名とご家族にご参加いただきました。

本社



環境コミュニケーション

中国
東莞工場

工場見学会

2018年8月、従業員のご家族を対象とした工場見学会を実施し、20名のお子様にご参加いただきました。環境に配慮したものづくりの現場をご案内し、環境保全の取り組みについてもご紹介しました。



メキシコ
工場

環境 EXPO 2018

2018年10月、バハ・カリフォルニア州政府主催の「環境 EXPO2018」が開催され、15,000人以上が訪れました。SMK メキシコは従業員25名が参加し、「プラスチックごみ削減」についてのプレゼンテーションとワークショップを開催しました。



SMK サマーキャンプ開催

2018年7月、従業員のご家族を対象としたサマーキャンプを開催し、60名のお子様にご参加いただきました。楽しいプログラムの中には、地球環境について考える時間も設けました。



環境活動トピックス

美化活動

植栽ボランティア (品川区)

しながわ CSR 推進協議会の会員として、「しながわ花海道」の種まきに参加しました。

「しながわ花海道」は NPO 法人が維持管理を行っているプロジェクトで、勝島運河護岸の約 2km に菜の花やコスモスの花を育て、自然豊かで調和のとれた社会づくりに貢献しています。

本 社



アメリカ
グループ



清掃活動

SMK グループでは、積極的に地域の清掃活動に取り組んでいます。

中国
東莞工場



ヨーロッパ
営業所



富山
事業所



ひたち
事業所



水の保全

SMK グループでは、「水」も大切な資源の一つと認識し、水道設備の定期点検、工程排水の再利用、水保全の啓発など、水保全活動を推進しています。各拠点の有効な活動は共有し水平展開しています。

安全な水の内製化

従業員へ安全な飲料水を供給するため、水道水を浄化・UV 処理する設備を導入しました。内製した水は公的に衛生許可を得て、定期的に水質検査を行っています。

フィリピン
工場



環境に配慮した製品づくり

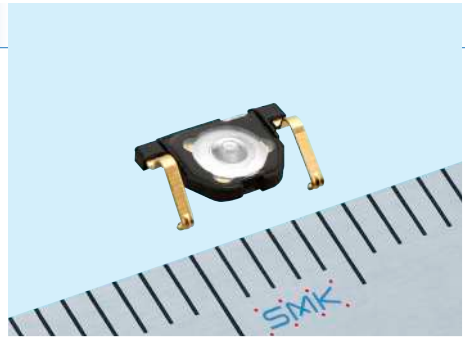
Micro USBコネクタ (スプリング端子)

スマートフォン・携帯電話等で使用される Micro USB コネクタです。
端子を基板に押し当てて実装するスプリングコンタクト構造とし、はんだを使わない方式を採用しています。
RoHS指令、およびハロゲンフリーを考慮した設計、材料選定を行っています。



ミニ1ドームスイッチ

はんだレスで実装できる「スプリングコンタクト構造」のウェアラブルデバイス向けスイッチです。
基板により近い位置 (当社従来比 15%減) に実装可能とすることで、セットの薄型化、ロバスト性の向上に成功しました。
はんだレスで取り付けることができるため、環境保護に貢献します。



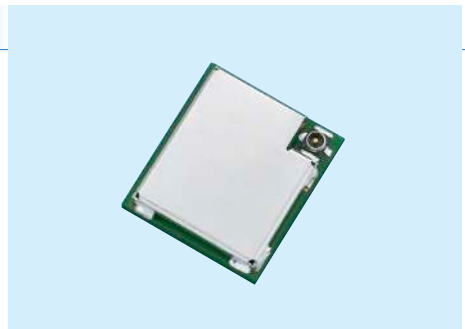
振動機能付 銅メッシュ静電容量方式タッチパネル「CapBeat Touch® -MM」

大型でもスマートフォンの様な軽快な操作を可能にした振動付銅メッシュ静電タッチパネルです。
本品は市場から強い要求のある入力時の感触を実現した他、タッチパネル センサーパターン形成に通常使用されるITO (酸化インジウムスズ - インジウムは希少金属) の代わりに銅メッシュセンサーを使用し、環境に配慮した製品となっています。
※ CapBeat Touch は SMK 株式会社の日本における登録商標です。



LoRaWAN® 対応 RF モジュール「LR01 シリーズ」

LPWA (Low Power Wide Area) と呼ばれる無線通信規格の一つである LoRaWAN® に対応したモジュールです。
Sigfox と同様に、省電力で広域の通信をカバーすることができ、また、シールドケースにクロムフリーの素材を採用するなど、環境に配慮した設計、材料選定を行っています。
※ LoRaWAN® のリードマークは LoRa Alliance™ が所有する登録商標であり、SMK 株式会社は、このマークをライセンスに基づいて使用しています。



SMK株式会社

142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号

環境室 TEL: (03) 3785-5058 FAX: (03) 3785-0517 ホームページアドレス URL: <https://www.smk.co.jp/>

2019年7月発行